

# しどろき じどうかん フローター通信!

「フローター」、みなさんは聞いたことありますか？知っている人はあまりいないのではないのでしょうか。  
令和6年4月、世田谷区に2人の「子どもの居場所フローター」が誕生しました。  
そのうちの1人が、等々力児童館にいる白いメガネの職員「むらまっちょ」です。

## ★子どもの居場所フローター★

児童館職員が児童館を飛び出し、地域へ。ふわふわとただよいながら  
居場所と居場所、居場所と子どもをつなぐ人のことです。



今回は、みなさんにフローターのことを紹介します！

## Q.フローターはどんなことをするの？

### ①まちにある子どもの居場所に突撃！

みんなが行く場所、児童館以外にもたくさんありますよね。のげせい、プレーパーク、こども食堂、寺子屋、  
フリースクール…ほかにも、神社や公園、駄菓子屋さん。

子どもが集まるところ、どこでも行って、そこにいる大人たちと仲良くなりました。

大人同士が仲良くなるだけで、子どもは初めての場所にも行けるようになります。知っている人がいると安心しますよね。こうして、みんながまちにある様々な居場所を知る、お手伝いをしていました。

場所もだいじ、人もだいじ！



### ②「助けて」という声をうけて、一緒にかんがえたり行動したりしました。

たとえば、学校に行けずに悩んでいる子にフリースクールのことを伝え、「一緒なら行ける…」というケースには同行しています。

ただ近くの場所を紹介するのではなく、その子に向いているところをを考えて紹介できるのが、児童館職員＝フローターの良さだと思います。

子どもを知り、地域を知っているからこそ、できるコーディネート。場所だけではなくて、制度や情報もたくさん知っています。なにかこまったことや、大変なことがあったら相談してね(^^)／

### ③「やりたい」という思いには、徹底的に寄り添います。

等々力児童館には、子どもたちの思いを実現する2つの仕組みがあります。

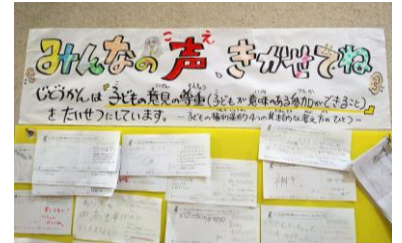
1つ目は「こどもの声ポスト」。何でも書いてポストに入れると、必ず職員が返事を書きます。

「ボールをもう1つ増やしてほしい」の声には、職員で話し合い、30分後には実現！声を聴くだけじゃなくて、それに対して返事をするのがだいじだと思っています。みんなの声が影響力をもつ、ということ。初めて来た子でも、幼児さんでも、だれもが児童館の運営に参加できる。そういうことを伝えていくこともだいじだと思っています。

2つ目は「こども企画」。具体的にやりたいことがある子には、企画書をわたします。職員はなるべく口をはさまず、子どもたちのやりたいように、いざ実現！

「くらやみかくれんぼ」「チャーハンをつくろう」「スマブラ大会」「虫とりの旅」など、年間20~30もの企画が生まれています。

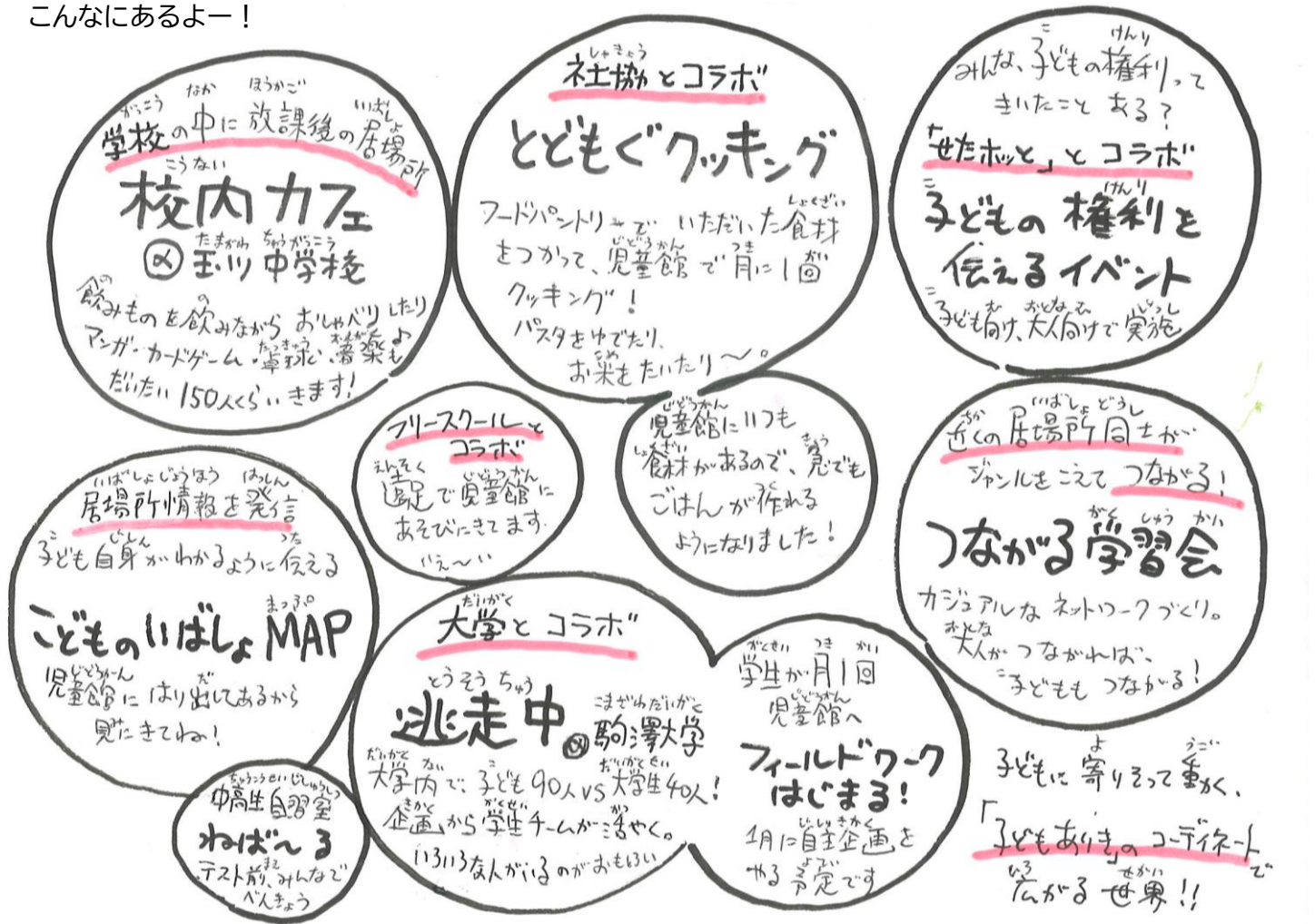
安心して意見を言える環境があってはじめて、何かあったら言ってみよう(=意見表明)につながるのだと思います。



やりたいこと、いろいろできるよ！ 想いは口に出してみよう(\*´ω`)

Q. フローターの活動で、新しく始まったことはありますか？

こんなにあるよー！



Q. これから、どうなる？

2年間のモデル事業で始まったフローターは、令和8年度からいよいよ本格実施へ！  
児童館をはじめとする「子どもの権利の拠点としての居場所」を社会に広げ、「すべての子どもが、じぶんらしくあそべる世界に」をキーワードに、これからもフローターは子どもたちのそばに居続けます。